

わじまちゅうおう

輪島中央(2期)地区

(石川県輪島市)

- 計画期間 平成28年度～令和3年度
- 面積 150ha
- 交付対象事業費 3,672百万円
- 市人口 24,442人

ポイント

中心市街地における賑わいの創出

地区概要

中心市街地及びその周辺において、公共不動産の有効活用による公共公益機能の集約や、利便性の向上を目的とした都市機能の再編を図る。

目標

中心市街地の賑わいの再生、地元商店街の活性化
 中心市街地の利便性の向上を図ることで、人口減少の抑制
 地域の活性化を図ることで、地域の地価公示価格の下落率の抑制

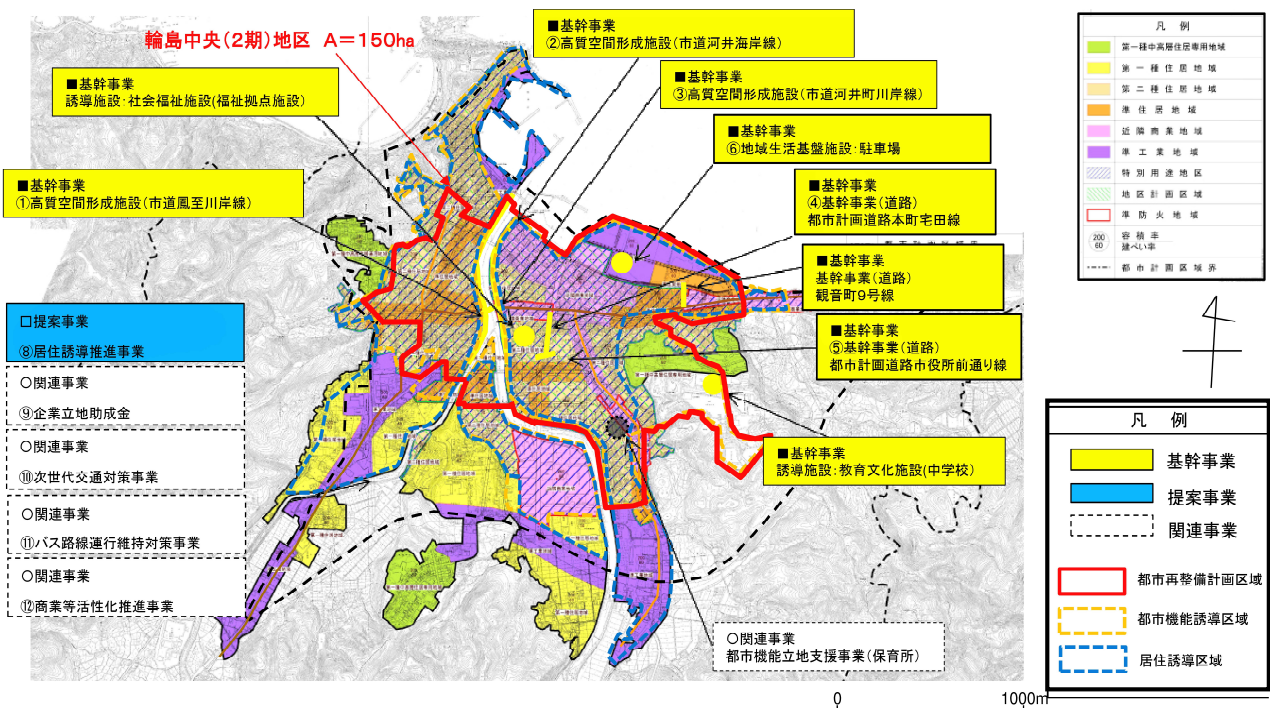
指標

中心市街地における賑わいの創出を図るため、空き家・空き店舗の利用数、中心市街地の人口減少数、市街地における地価公示価格の下落率を目標とした。

空き家・空き店舗の利用数	3 (軒/年)	(H29)	→	11 (軒/年)	(R3)
中心市街地の人口減少数	8,105 (人/年)	(H29)	→	7,572 (人/年)	(R3)
市街地における地価公示価格の下落率	-1.5 (%/年)	(H29)	→	-3.8 (%/年)	(R3)

事業内容

- 基幹事業 (3,657百万円) → 道路(3路線、幅員7.0m～12.0m、延長609m)、地域生活基盤施設(駐車場) 高質空間形成施設(3箇所)、
 中心拠点誘導施設(教育文化施設:中学校、社会福祉施設:複合拠点施設)
 提案事業 (15百万円) → 居住誘導推進事業



地区の現況と課題

現況

地区内では平成 22 年度までまちづくり交付金等により各種の整備を行い、総合的な賑わいづくりを実施してきたほか、平成 23 年度から 27 年度にかけて、輪島中央地区として観光交流人口の確保や都市機能の再編を図るための整備を行っており、特に都市機能の再編については、施設の移転計画等が中長期に及ぶことから 2 期計画の策定が求められていた。

課題

観光産業・漆器産業の低迷とともに、少子高齢化に伴う高齢者世帯の増加や空き家・空き地の増加が著しく、市街地を中心に都市機能や地域活力が低下傾向にあることから、これまでに整備された施設の有効な利活用や魅力の向上、交流イベントの実施により交流機会の増加を図るとともに、市街地における回遊性や利便性の向上を図る必要がある。

計画策定プロセス

本計画は、「輪島市総合計画」を上位計画とし、施策を検討している。

ほかに、本計画で整備を計画している中心拠点誘導施設は、「立地適正化計画」に位置づけている。

施策の検討

住民を交えた懇談会での検討や、関係機関への効率的な働きかけを行い施策の実現に努めている。

また、当該計画を社会資本総合整備計画に位置づけることにより、他の基幹事業との一体的な整備を実施することとしている。

さらに、地区内において社会福祉法人や公益社団法人が「輪島 KABULET」と称して空き地や空き家を利用した社会福祉施設等の整備による生涯活躍のまちづくり（地方創生関連）を進めていることから、立地適正化計画や本計画との整合を図ることにより、本市におけるコンパクトシティプラスネットワークを推進することとしている。



【中心拠点誘導施設として整備した輪島中学校】



【道路整備による市街地の回遊性・利便性の向上】



【相乗効果が期待される輪島 KABULET】



【空き家・空き地を利用した社会福祉施設（複合拠点施設）
（上：整備前・下：整備後）